

CSR 検定 3 級第 14 回試験正答 (2022 年 4 月 24 日実施)

問題 1 「CSR の目的と領域」に関する次の記述で、最も適切なものを一つ選べ。

正答：ア (イ：CSR 元年ではなく「サステナビリティ元年」、ウ：これは「プロボノ」の説明、エ：CSR の領域は 4 つに分けられる)

公式テキスト：Chapter 1.1 CSR の目的と領域、Column 5 「プロボノ」とは何か

問題 2 「SDGs とサステナビリティ経営」に関する次の記述で、最も適切なものを一つ選べ。

正答：エ (ア：SDGs は開発途上国のみならず先進国を含めた全ての人に適用される、イ：2050 年ではなく 2030 年、ウ：SDGs は国連グローバル・コンパクトではなく MDGs の後継)

公式テキスト：Chapter 1.2 SDGs とサステナビリティ経営

問題 3 1997 年に発覚した米国大手スポーツアパレル企業による労働搾取問題から、世界の企業が学び得た教訓として最も適切なものを一つ選べ。

正答：ウ

公式テキスト：Chapter 1.3 世界の CSR をめぐる動き

問題 4 「大企業と中小企業の CSR」に関する次の記述で、最も適切なものを一つ選べ。

正答：エ (ア：大企業と中小企業とでは、社会からの期待値や取り組みのレベル、効果に差が生じる、イ：大企業よりも中小企業の方が特定のターゲットに合わせた取り組みを行いやすい、ウ：参加型の地域貢献活動は大企業よりも中小企業の方が行きやすい)

公式テキスト：Chapter 1.4 大企業と中小企業の CSR

問題 5 「コンプライアンスの本質」に関する次の記述で、不適切なものを一つ選べ。

正答：ウ (ステークホルダーや社会の要請に応えることはソフトロー<社会的規範>である)

公式テキスト：Chapter 1.5 コンプライアンスの本質

問題 6 「企業の CSR レポート」に関する次の記述で、適切なものはいくつあるか。

正答：エ (すべて適切)

公式テキスト：Chapter 1.6 企業の CSR レポートの役割と現状と課題

問題 7 「ISO26000」の 7 つの原則について、不適切なものを一つ選べ。

正答：ウ

公式テキスト：Chapter 1.7 ISO26000 とは何か

問題 8 「国連グローバル・コンパクト」に関する次の記述で、最も適切なものを一つ選べ。

正答：ウ（ア：UNGCは4分野10原則で構成されている、イ：UNGCへの参加・署名に制限はない、エ：署名団体に占める企業の割合は約8割となっている）

公式テキスト：Chapter 1.8 国連グローバル・コンパクトとは何か

問題 9 「サステナブル投資」に関する次の記述で、不適切なものはいくつあるか。

正答：ア（4が不適切。持続可能な保険原則や責任銀行原則が既に発足している）

公式テキスト：Chapter 1.9 サステナブル投資から ESG 投資へ（脚注部分含む）

問題 10 「自治体によるCSR及びSDGs政策」に関する次の記述で、適切なものはいくつあるか。

正答：ウ（3が不適切。環境未来都市ではなく「SDGs 未来都市」が正しい）

公式テキスト：Chapter 1.10 自治体政策、CSR から SDGs へ

問題 11 松下幸之助の「企業は社会の公器」の考え方に合致するものとして、最も適切な記述を一つ選べ。

正答：ウ（ア：必ずしも政府に委ねることが正しいとは限らない。グローバル社会では国家による統治が及ばない問題もあるため、企業がステークホルダーと協働して、問題解決に当たることが重要である。イ：必ずしも司法に判断を仰ぐことが正しいとは限らない。自社内で解決可能な問題は、経営陣や社内の関連部署が積極的に関与し、問題をコントロールすることも重要である。エ：利益を創出することで、企業は組織としてのサステナビリティを確保することができるため、継続的に社会の役に立つためには、利益の獲得も重要だといえる）

公式テキスト：Chapter-2.1 「企業とは社会においてどんな存在か」

問題 12 「社会が企業に求める役割」について、最も適切な記述を一つ選べ。

正答：エ（ア：問題の責任を政府だけに求めるのではなく、企業は自らの社会的責任を自覚して、問題解決を図らなければならない。イ：発生源となっている自社のビジネスを特定したら、問題を回避もしくは緩和すべく、ビジネスの見直しを行うべきである。ウ：サプライチェーン上の問題についても、元請け企業が自らの責任を自覚し、管理に当たらなければならない）

公式テキスト：Chapter-2.2 「社会における企業の役割はどう変わってきたか」

問題 13 「ステークホルダー」に関する次の記述で、最も不適切なものを一つ選べ。

正答：ウ（ステークホルダーの期待を経営に活かすにあたっては、必ずしも業績が最優先されるとは限らない）

公式テキスト：Chapter-2.3 「企業にとってステークホルダーとは何か」

問題 14 「コンプライアンス」に関する次の記述のうち、最も不適切なものを一つ選べ。

正答：エ（文書化されていないことに対しても積極的に柔軟かつ的確に対応することが必要である）

公式テキスト：Chapter-2.4 「企業に求められる必要な対話力とは」

問題 15 1982年に国際消費者機構が定めた「消費者の8つの権利」について、各権利ののうち、最も不適切なものを一つ選べ。

正答：ウ（「連帯する権利」ではなく、5つの消費者の責務の一つとして「連帯」がある）

公式テキスト：Chapter-2.5 「消費者重視経営とは何か」

問題 16 「SDGs」に関する次の記述で、最も適切なものを一つ選べ。

正答：ア（イ：優先順位をつけてはならないわけではない。ウ：企業にも自主的な取り組みが求められている。エ：必ずしも株主とのみ対話すればよいとは限らない）

公式テキスト：Chapter-2.7 「社会課題とSDGs」

問題 17 「企業の社会貢献と寄付」に関する次の記述のうち、最も適切なものを一つ選べ。

正答：イ（ア：従業員は、ボランティア参加により、企業のパーパスを認識することができる。ウ：コーポレート部門から事業部門に移管する企業が見られる。エ：他社や行政、NPOなどと広く協働・連携して取り組む「コレクティブ・インパクト」と呼ばれるケースが増えている）

公式テキスト：Chapter-2.8 「企業の社会貢献と寄付」

問題 18 「企業と人権」に関して、最も適切なものを一つ選べ。

正答：ウ（ア：日本は2020年10月に「ビジネスと人権に関する国別行動計画」を策定した。イ：企業に対して人権を尊重する責任を求めている。エ：「ビジネスと人権に関する指導原則」は国家でなく企業に対して人権デューデリジェンスを求めている）

公式テキスト：Chapter-2.9 「企業と人権」

問題 19 より広義の視点に立った場合の「コンプライアンス」の意味として、最も適切なものを一つ選べ。

正答：エ（ア：狭義のコンプライアンスに位置づけられる。イ：狭義のコンプライアンスに位置づけられる。ウ：広義のコンプライアンスにあたらぬ。エ：一步意味を拡大した広義のコンプライアンスに位置づけられる）

公式テキスト：Column-3 「法とCSR」

問題 20 「企業と人権」に関する次の記述のうち、最も不適切なものを一つ選べ。

正答：エ（「無意識の偏見」が無条件に許容されるわけではない）

公式テキスト：Chapter-2.9 「企業と人権」

問題 21 日本国内の「多様な働き方」に関する以下の記述より、最も不適切なものを一つ選べ。

正答：イ（日本では、コロナ禍以前から大都市圏に人が集中しなくとも仕事ができるインフラが整っていたが、多くの企業は在宅ワークやオンラインミーティングなどの導入に消極的であった）

公式テキスト：Chapter3-1：真価が問われる「社会とつながる働き方」

問題 22 「NPO」に関する以下の記述より、最も適切なものを一つ選べ。

正答：エ（ア：特定非営利活動促進法の施行は、阪神淡路大震災後の 1998 年である。また認定制度は法施行後の 2001 年に設けられた。イ：NPO は、市民の行う自由な社会貢献活動として定着しつつある。ウ：画一的な施策だけでは解決できなくなり、地方分権をはじめとする新たな施策を積極的に進めている）

公式テキスト：Chapter3-2：NGO/NPO とはどんな存在か

問題 23 「企業と NPO の協働」に関する以下の記述より、空欄に該当する語句で最も適切な組み合わせを一つ選べ。

正答：エ

公式テキスト：Chapter3-3：企業と NPO が協働する意味とは

問題 24 日本の「ワーク・ライフ・バランス (WLB)」に関する以下の記述より、最も適切なものを一つ選べ。

正答：ウ（ア：努力義務ではなく、義務付けられている。イ：「次世代育成支援対策推進法」の下で認定されるのは「子育てサポート企業」である。エ：「子育てサポート企業」は「くるみんマーク」であり、「えるぼしマーク」は、「女性活躍推進法」に基づき、女性の活躍に関する状況などが優良な企業を厚生労働大臣が認定する制度である）

公式テキスト：Chapter3-4：ワーク・ライフ・バランスとは何か

問題 25 日本の「ダイバーシティ」に関する以下の記述より、最も不適切なものを一つ選べ。

正答：ア（高齢者雇用安定法では、65 歳までの雇用確保措置として事業主には、「65 歳までの定年引上げ」、「定年制の廃止」、「65 歳までの継続雇用制度」のいずれかが求められている）

公式テキスト：Chapter3-5：ダイバーシティ & インクルージョンとは何か

問題 26 「プロボノ」に関する以下の記述より、最も適切なものを1つ選べ。

正答：イ（ア：各企業の取り組みがいかに本業と結びついているかが問われるようになる。ウ：プロボノの認知や関心の高まりは、2010年の「プロボノ元年」以降である。エ：プロボノは、ビジネスで培った経験やスキルを活かして取り組む社会貢献活動のことを指す）

公式テキスト：COLUMN5：「プロボノ」とは何か

問題 27 「SDGs と消費行動」に関する以下の記述より、空欄に該当する語句で最も適切な組み合わせを1つ選べ。

正答：ア

公式テキスト：Chapter3-6：SDGs と消費行動

問題 28 日本の「SDGs と消費行動」に関する以下の記述より、最も不適切なものを1つ選べ。

正答：エ（消費者教育推進法では、消費者教育の推進を行政の義務として定めている）

公式テキスト：Chapter3-6：SDGs と消費行動

問題 29 「グローバルな気候変動」に関する以下の記述より、最も不適切なものを1つ選べ。

正答：ウ（日本をはじめとした先進国の気候変動対策は十分ではなく、さらなる対策が求められている）

公式テキスト：Chapter4-1：グローバルな気候変動交渉の動き

問題 30 「生物多様性」に関する以下の記述より、空欄に該当する語句で最も適切な組み合わせを1つ選べ。

正答：イ

公式テキスト：Chapter4-2：生物多様性

問題 31 世界の貧困に関する次の記述から、最も適切なものを一つ選べ。

正答：エ（ア：SDGs で言及されている。イ：加担の回避を求められている、ウ：児童労働は日本国内の法令に違反する）

公式テキスト chapter 4-3：世界の貧困と児童労働

問題 32 エシカルなビジネスに関する次の記述で、最も不適切なものを一つ選べ。

正答：エ（復興支援につながる消費行動やファンドが続々と生まれ、こうした応援消費もエシカル消費の一部である）

公式テキスト chapter 4-4：エシカルなビジネス

問題 33 フェアトレードに関する次の文章の空欄に該当する語句で、最も適切な組み合わせを一つ選
べ。

正答：ア

公式テキスト chapter 4-5：フェアトレード

問題 34 オーガニック／有機農業に関する次の記述で、適切なものはいくつあるか。

正答：エ（全て適切）

公式テキスト chapter 4-6：オーガニック／有機農業

問題 35 自然エネルギーと RE100 に関する次の記述で、最も不適切なものを一つ選べ。

正答：ウ（SDGs は自然エネルギーのシェア拡大を求めているが、原発に限定していない）

公式テキスト chapter 4-7：自然エネルギーと RE100

問題 36 日本の障がい者雇用に関する次の記述で、最も適切な組み合わせを一つ選べ。

正答：イ（2：法定雇用率達成企業の割合は 48.6%。3：法定雇用率は、民間企業は 2.3%、国・地方公
共団体など 2.6%、都道府県などの教育委員会は 2.5%と、一律ではない）

公式テキスト chapter 4-8：障がい者雇用

問題 37 ソーシャルビジネスに関する次の記述で、最も不適切なものを一つ選べ（※）。

正答：ア

公式テキスト chapter 4-9：ソーシャルビジネス

※「最も不適切なものを一つ選べ」ではなく、「最も適切な組み合わせを一つ選べ」を意図した問題で
した。これに伴い、「全員正解」となります。お詫びして訂正します。

問題 38 海洋プラスチックごみ問題に関する次の記述で、最も不適切なものを一つ選べ。

正答：エ（世界で使い捨てプラスチックの規制は進んでいる）

公式テキスト chapter 4-10：海洋プラスチックごみ問題

問題 39 アニマルウェルフェアに関する次の記述で、最も適切な組み合わせを一つ選べ。

正答：イ

公式テキスト chapter 4-11：アニマルウェルフェア

問題 40 日本の LGBTQ に関する次の記述で、最も適切な組み合わせを一つ選べ。

正答：エ（1：地方自治体による同性パートナーの登録制度が増えている。2：アライはLGBTQの問題に自分ごととして取り組む人のことであり、不適切）

公式テキスト chapter 4-12：LGBTQとは